

令和元年5月31日

全国大学音楽教育学会会員各位  
関東地区学会会員各位

全国大学音楽教育学会 関東地区学会  
会長 高倉 秋子 (学会印省略)

## 『令和元年度 総会・第1回研究会のお知らせ』(最終案内)

会員の皆様には益々ご健勝のことと存じます。

さて、全国大学音楽教育学会 関東地区学会 総会・第1回研究会を下記のように開催いたします。奮ってご参加くださいますようご案内申し上げます。

記

### 令和元年度テーマ 『子どもの教育と音楽 ～豊かな表現をめざして～』

- 1 日時 令和元年6月22日(土) 午後13:00～17:00
- 2 会場 ヤマハ株式会社(東京高輪) 1F プレゼンテーションルーム  
(都営地下鉄浅草線 泉岳寺A3出口 徒歩1分)
- 3 日程 12:30～13:00 受付  
13:00～13:30 総会  
13:40～15:10 講演 志村 洋子氏(埼玉大学名誉教授 教育学博士)  
講演タイトル「乳幼児の音楽的感性を育む環境に必要なもの  
—赤ちゃん学研究成果からわかってきたこと—」  
15:30～17:00 研究発表 ※第一次案内と時間が変更になっております  
(1) 「みんなで一緒に歌うことの意味」を考える  
—クロアチアの幼稚園・小学校に見られる表現活動を例に—  
十文字学園女子大学 野田 日出子  
(2) 打楽器を使用した子どもの歌の表現法  
—演習科目「器楽演習(2年次)」での実践を通して—  
日本体育大学 氏家 史人  
(3) 子供の主体的表現を引き出す援助に関する検討 —即興的音楽づくりを通して—  
武蔵野大学 長坂 希望
- 4 研究会参加費 会員1000円 一般参加1500円
- 5 情報交換会 17:30～19:30 ※第一次案内と時間が変更になっております  
会費:4,860円(税込) 会場:リコット 東京都港区三田4-19-18 三田杏里ビル1F

都営浅草線 泉岳寺駅 A3 出口 徒歩1分 TEL03-6277-2969

出口を出て左に直進(エネオスを通過)、三菱東京UFJ銀行ATMを左折して50mのところです。

※お申込み後当日欠席の場合、会費は徴収させていただきますのでご了承ください。

**総会開催のため、同封の出欠葉書の返信を6/14必着でお願いいたします。**

**欠席される方は、委任状に捺印の上ご投函ください。**

★ホームページで各地区最新情報をごらんください。 <http://nacome.com>

★役員会及び会計監査を10:00より行います。役員・会計監査の先生方はご参集ください。

## 【講演要旨】

### 「乳幼児の音楽的感性を育む環境に必要なもの ―赤ちゃん学研究成果からわかってきたこと―」 志村洋子氏（埼玉大学名誉教授 教育学博士）

近年の赤ちゃん学研究成果は、これまでわれわれが持っていた「赤ちゃん」の能力についての常識を覆すものとなっています。胎児はその精巧な耳ですでに胎内から多様な音を聞いていることは知られていますが、出生後も外界の音を聞きながら、そこにある音を自身が生きていくための情報としていきます。しかし、赤ちゃんの耳が持っている「聞こえ」の特性は、その乳幼児期から児童期にかけての成長過程でつくられていくもので、われわれ成人の聞こえとは大きく異なることがわかってきました。例えば、音の聴取の際にある周囲の「騒音」の影響を受けやすいことは、最近の研究で明らかになっています。

2000年代以降、赤ちゃんや幼児の多くが保育園やこども園など集団の中で生活し、長時間を過ごすようになりました。こうした生活環境の変化が子どもの発達とどのようにかかわっているか、「音」や「音楽」にかかわる実際のデータをもとにお話いたします。

## 【研究発表要旨】

### ① 「みんなで一緒に歌うことの意味」を考える ― クロアチアの幼稚園・小学校に見られる表現活動を例に ― 野田 日出子（十文字学園女子大学）

2014年からクロアチアのザグレブ市にある幼稚園と小学校を5回訪問し、フィールドワークを行ってきた。その結果、保育・教育活動の中で、「folklore」に関する取り組みが、日常的に行われていることがわかった。民族衣装を着て皆で歌いながら民族舞踊を踊ったり、衣装の模様の由来にふれながら実際に工作したりと、多様な表現活動が行われている。

そこで今回は、今までの訪問の際に多数遭遇した、子どもも教師も皆、自然と一緒に声を合わせて歌う場面から得た気づきを基に、保育・教育の場で“みんなで一緒に歌う”ことの意味、本来の音楽の役割について見直し、確認していくことの必要性を提案したい。

クロアチアは、ユーゴスラビアからの独立を巡り、激しい内戦を経験した小国である。また、個人的な関心から始めたフィールドワークではあるが、クロアチアならではの土着文化に基いた表現活動から、学ぶことが多数あるのではと考え、発表する。

### ② 打楽器を使用した子どもの歌の表現法 ― 演習科目「器楽演習（2年次）」での実践を通して ―

氏家 史人（日本体育大学）

本研究は、保育者を志望する学生の「器楽」における表現活動に特化し、教育楽器である打楽器を使用したカリキュラムでの実践報告である。

本学前期に行われている演習科目「器楽演習（2年次）」では、児童スポーツ教育学部幼児教育保育コースの学生50名を対象に、「現場で使われる様々な楽器の知識や演奏法等を習得し、音楽を多角的に捉える力を養うこと」を目標の一つとして、計15回の授業に取り組んでいる。その中でも特に下記の3点を重視し、「学生の声」に着目しながら授業展開を行なっている。

1. 打楽器それぞれの名前や正しい扱い方、奏法の習得
2. 打楽器を活用したリズム表現ができる
3. 楽器演奏を歌うこと等と組み合わせ、総合的な表現活動につなげていく

これらの活動を通して「保育者への教育的アプローチが、どのように子どもたちへ還元されていくのか」、「子どもたちの遊びや学びが有意なものとなるには、どのような教育的アプローチを保育者へ促していくのか」を検証課題とし、その有用性を見出したい。

### ③ 子供の主体的表現を引き出す援助に関する検討 —即興的音楽づくりを通して—

長坂 希望（武蔵野大学）

保育者養成校で「音楽療法」の授業を担当していると、学生から子供と音楽活動を行う際の不安や苦手意識を感じさせられる発言を多く耳にする。音楽療法士は、いかに対象者の興味や意欲をかきたて主体的な表現へとつなげるかを考慮しながら日々臨床を行っている。そこで本研究では、将来子供達の音楽の担い手となる養成校の学生たちに、子供の主体的表現を引き出すのに有効な援助法を具体的に伝えるため、音楽療法士である筆者が行った0歳～70歳の参加者が集う即興的な音楽づくり、ドラムサークルの様子を映像に収め、観察、分析を行った。その結果、子どもの主体的な音楽表現とそれに対応する大人の行動について①音楽的な環境設定、②主体性の尊重、③音楽表現を受け止める援助が子供の主体的な表現を引き出していたのではないかと考察された。本発表では分析時に用いた映像を使用しながら、具体的な援助方法を紹介したい。